

「原子カムラ」の境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行
第8回フォーラム研究会
議事録

日時：平成26年8月5日（火） 13：00～16：20

場所：パブリック・アウトリーチ本部事務所

出席者：14名（順不同・敬称略）

木村（PONPO）、足立（元気ネット）、植木（元気ネット）、円満字（PONPO）、
大石（PONPO）、釜山（元気ネット）、神崎（PONPO）、鬼沢（元気ネット）、久保（PONPO）、
渋谷（元気ネット）、竹中（PONPO）、丸山（PONPO）、諸葛（PONPO）、
第1期フォーラム参加者

配布資料

- F8-0. 議事次第
- F8-1. 第7回フォーラム研究会議事録案
- F8-2. 第5回フォーラムに関するアンケート集計結果（主に自由記述）
- F8-3. 第5回フォーラムの振り返り（運営者の反省メモ）
- F8-4. 第5回フォーラム模造紙まとめ
- F8-5. システム要件について（昨年度報告書からの抜粋）

議題

- 0. 前回議事録確認
- 1. 第5回フォーラムの振り返り
- 2. その他

※議論の詳細については、逐語録に記録されている。

0. 前回議事録確認（配布資料 F8-1）

木村氏より、資料 F8-1 に基づき、前回の議論の内容が確認された。

1. 第 5 回フォーラムの振り返り（F8-2～F8-5）

各自が第 5 回フォーラムに関する資料（F8-2～F8-4）に目を通した後、第 5 回フォーラムの振り返りを行った。主な意見を以下に示す。

【運営について】

- ・ 第 5 回は、結果的に最初にアナウンスしたテーマと異なるテーマになった。そのことによって、参加者の満足度がやや低下したかもしれない。（アンケートにも数点記述がある）
- ・ 「地球温暖化」をテーマにしたことで、「原子力」の話題では気づけなかったことに気づいた、という意見もある。例えば、第 4 回と第 5 回のテーマを逆にして、「温暖化」のテーマで気づいたことを踏まえて、再度原子力について話し合ったらどうなるのかは興味深い。
- ・ グループワークの時間を長くしたが、時間が余っている様子も見受けられた。
→人間の集中力の限界もあるのかもしれない。
- ・ 時間が長く、まとめる際の余裕はあったが、意見が深まったとは言い難い。
→班によって、話の広がりの違いがあった。その原因が分かれば、システムに取り入れたいところ。（メンバーの違いが原因だったらどうしようもないが）
→男性、女性の人数のバランスが良いほうが、意見に広がりが出るのではないか。女性の専門家の人数がもう少し多いほうがよかったかもしれない。
→参加者は、公平に話題を振る、特定の人が話しすぎるのを止める、くらしいファシリテーションはできるようになるようだ。しかし、周りの人の表情を見て、意見を引き出すことまでは、なかなかできないのではないか。
- ・ ファシリテーションの注意点や、サブファシリテーターの「良い一言」の例などをしっかりと取りまとめて、今後に資するべきではないか。

【参加者について】

- ・ 第 5 回は「全員が市民」という前提で行ったのに、「専門家参加者が専門家のままだった」という感想がいくつか見られる。
- ・ 専門家にとって、確かに情報提供も重要な役割のひとつだ。しかし、情報提供をした後は、市民の方と対等な立場で意見交換をすることが、専門家に真に求められている役割

なのではないか。

- 「専門家」になることで、「情報提供をしなければいけない」などの意識（人格）が身についてしまうのか。それとも、これは「原子力の専門家」に特有の性質なのか。（だとしたら、ムラの境界を越えることは非常に困難である）
 - ◇ 他分野の専門家でも、そのような傾向は見られる。例：経済評論家、温暖化の専門家
 - ◇ 例に挙げた分野は、一般の人々が関心を抱きやすく、説明の機会が多い分野だ。そうではない分野の専門家はどうか気になる。
 - ◇ 自分の専門分野においてのみ「専門家的なふるまい」をするのか、それとも、あらゆる分野において「専門家的ふるまい」をするのか（専門外の分野では「市民」になるのか否か）、気になる。
 - ◇ 同じ専門家参加者の中でも、説明をしたがる人、そうでない人の違いを感じた。個性の問題もあるだろう。
- ・ 専門家の専門範囲は狭く、知らないこともたくさんあるはずだ（特に、日本の専門家は視野が狭いと感じることが多い）。専門家参加者には、「自分には知らないことも多いから、市民の方の意見を聞いて勉強しなければ」という謙虚さが不足していたように感じる。
 - ・ 専門家に限らず、年配の方は、考え方や態度が固まってしまっている傾向が見られた。ただし、その程度は専門家のほうが強いように思われる。
 - ・ 「私は何をやる」という意見が少なかったのが残念だ。広い視点での話も重要だが、「それにつなげるために私は何をやるか」という話が出てほしかった。
 - ・ 共通点を見つけていくことを主とする方と、異なる点を認識していくことを主とする方に分かれているように感じた。

続いて、全 5 回のフォーラムを振り返り、フォーラムのシステム要件（F8-5）に追加すべき要素があるかどうか議論された。主な意見を以下に示す。フォーラムのシステム要件については、今後も検討を続けることになった。

- ・ 議論を深く掘り下げていくと、相手の人となりや価値観、考え方を把握できることが多い。人となりを知るために「深掘りをする回」を設けてもいいのではないかと。
 - 例えば、全 5 回ならば第 3 回が適切か。
 - 第 4 回は、深掘りのひとつの方法になりうるかもしれない。（必要・不要の両方の立場に立って考える）
- ・ 議論を掘り下げることは、参加者のファシリテーターには難しいだろう。その際は、訓練を積んだファシリテーターが必要になる。ただし、議論を深めることと、議論を誘導したと思われないことを両立させることは難しい。

→原子力とは関係のないテーマならば、議論を誘導したと思われにくいのではないか。
→ファシリテーターがルールを守っているかどうかを見張ることに専念する役を置く、
という手法もある。

- ・ 専門家の説明を聞いた市民が誤解してしまうおそれがあるのではないか。
→「情報提供」のレベルの話なので、本プロジェクトの目的から外れる。
→市民側にも、本当に学びたいと思っているならば、自ら確認する姿勢が必要だ。専門家の説明は、自ら調べる際の「手がかり」と捉えてもいいかもしれない。
→フェイストゥフェイスでの議論は、信頼形成には重要な役割を持ち、参加者同士でかなり細かい議論ができるようになるというメリットがある。一方で、親しくなった相手が言うことを鵜呑みしてしまい、「相手の言ったことを疑ってみる」という態度が薄れてしまう弊害も起こりうる。

2. その他

- ・ シンポジウムの開催日が検討された。12月20日（土）の午後が第一候補となった。
- ・ 森田朗氏が、今年度は外部評価委員から外れることが告知された。その代わりに、シンポジウムでコメントをいただくことを検討している。
- ・ 第9回フォーラム研究会の日程が決定された。8月19日（火）に開催する。フォーラムのシステム要件の検討を続ける予定である。

以上